

民進代表選 駆け引き激化

岡田氏出馬観測に反発

若手に蓮舫氏擁立論 保守系も対抗馬探る

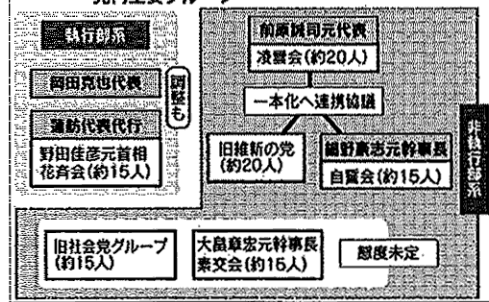
9月の民進党代表選に向け党内の駆け引きが本格化している。岡田克也代表は態度をまだ明かさずにいるが、周辺では出馬の観測が強い。次期衆院選をにらみメジ朗新を求める若手の間では反発も出ており、蓮舫代表代行に期待する声も浮上している。前原誠司元代表ら保守系も現執行部の野党共闘路線を疑問視し、対抗馬の擁立の可能性を探っている。

氏自身が「実行すれば代表選に出ない」としていた地元の三重選挙区で民進党候補が勝つたためだ。こうした姿勢にはじわりと反発が広がっている。ある中堅議員は「岡田氏が阻止するとしていた改選勢力で3分の2の議席獲得を安倍政権に許したのを思い出して」「責任を取るべきだ。次に責任を取らねばならぬ。衆院選は別の顔で戦うべきだ」と執行部閉鎖に期待を寄せた。

若手議員の間では、40歳代で知名度の高い蓮舫氏の立候補を求める動きが強い。蓮舫氏は参院選前、枝野幸男幹事長の受けたが辞退した。岡田氏にはかつて代表選への意欲を漏らしているだけ。「今回代表選に出るつもりではないか」と懸念が広がった。共産党との協力関係の拡大に慎重なだけに蓮舫候補を「防民なら支援できる」と周辺との声は強い。

一方、保守系議員は岡田氏が主導した共産党との共闘路線に批判を強めている。保守系の一人、長島昭久元首相補佐は22日のメルマガジンで「民進党が再び政権を奪還する可能性を感じさせる野党第1党のふた、徹底的な議論が必要だ」と指摘した。馬淵澄夫元国土交通相も21日のメルマガで、野党共闘について「軽々に既定路線のように踏襲するのはべきではない」と強調した。保守系は岡田氏の出馬を想定し、候補擁立の可能性を探っている。前原氏と細野豪志元幹事長は21日夜、都内のホテルで会談し、代表選に向けて意見交換した。会談は2日連続だ。旧維新グループも含めた協力の可能性を話し合った。

代表選出馬が取り沙汰される主な議員と党内主要グループ



「7月31日投票案の東京都知事選の敗北から党がまとまっていけない印象を与えるのは良くない」。岡田氏は28日、津市での記者会見でこう訴えた。市内の衆院選放談論案の可能性に言及し、「野党間の過半数協力の在り方について党としてしっかり取り組まなければならない」とも述べた。

自身は明言せず
岡田氏は自身の動向についても発言を控えているが出馬の見方は強い。執行部は参院選後の野党共闘に一定の成功があったとされている。岡田氏自身が「実行すれば代表選に出ない」と懸念が広がった。共産党との協力関係の拡大に慎重なだけに蓮舫候補を「防民なら支援できる」と周辺との声は強い。

民進党は8月初旬に開く臨時総会を、8月25日開演、9月7日投票の代表選日程を正式に決める。執行部の一人は「都知事選が」に激しくなる」と決める。執行部の一人は「都知事選が」に激しくなる」と決める。執行部の一人は「都知事選が」に激しくなる」と決める。